



受託研究報告書

株式会社ブレス 御中

オールチタン AT254-V による新型コロナウイルスに対する
不活化効果の評価



2021年2月1日
公立大学法人
奈良県立医科大学医学部
微生物感染症学講座



この度、御社との受託研究における標記の件につきまして、ご報告申し上げます。

記

1. 研究目的

オールチタン AT254-V (チタニア系化合物) によって、新型コロナウイルスの不活化効果があるか明らかにすること。

2. 試験品

オールチタン AT254-V (高濃度 2) 加工したガラス板 (50 mm x 50 mm)

3. 試験ウイルス：新型コロナウイルス (SARS-CoV-2; 2019-nCoV JPN/TY/WK-521 株)

新型コロナウイルスを VeroE6/TMPRSS2 細胞に感染させ、細胞変性効果が確認されたものを回収し、-80°Cのフリーザーに凍結保存した。凍結融解を 2 回繰り返したものを遠心分離し、上清を限外濾過膜で濃縮・精製した。これを試験ウイルス液とし、試験まで-80°C のフリーザーに凍結保存した。

なお、SARS-CoV-2 は国立感染症研究所より、VeroE6/TMPRSS2 細胞は国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 JCRB 細胞バンクよりそれぞれ入手した。

4. 試験内容

- 試験方法として、JIS Z 2801 (抗菌加工製品－抗菌性試験方法・抗菌効果) を参考に実施した。
- 試験品に新型コロナウイルスを 150 µl 接種し、4 cm 角のフィルムで被覆した。
- 一定時間、表 1 の条件にて静置した。
- 作用時間後、PBS 溶液によってウイルスを回収した。
- 回収液を用いて VeroE6/TMPRSS2 細胞に感染させ、をプラーク法にてウイルス感染価ならびにウイルスの不活化効果を算出した。

表 1. 試験品に対する作用時間

試験品*	作用時間				
	0 分	10 分	30 分	1 時間	2 時間
未加工ガラス板 (コントロール)	○	○	○	○	○
オールチタン AT254 加工ガラス板		○	○	○	○

*：試験品は、殺菌灯に 24 時間照射してから使用した。

○：測定 13 ポイント x 実施 2 回

不活化効果は以下のように算出した。

$$\begin{aligned} \text{不活化効果 (Mv)} &= \log(\text{Ct}/\text{C}_0) - \log(\text{Nt}/\text{N}_0) \\ &= \log\text{Ct}/\text{Nt} \end{aligned}$$

Ct: コントロール t 時間後の感染価

C₀: コントロール 0 時間後の感染価

Nt: 試験品 t 時間後の感染価

N₀: 試験品 0 時間後の感染価

減少率は対数減少値より次の通り算出した。

$$\text{減少率} = (1 - 1/10^{\text{対数減少値}}) \times 100\%$$

なお全試験は、本学内のバイオセーフティレベル 3 (BSL3) の実験施設において、適切な病原体封じ込め措置のもとに行なった。

5. 結果

結果を表 2～3 と図 1 に示した。

オールチタン AT254-V (高濃度 2) 加工のガラス板に 1.95×10^6 PFU/sample のウイルスを接触させると、2 時間後で 1.38×10^3 PFU/sample (減少率 99.887%) へと感染価が減少した。

表 2. ウイルス感染価の推移

	0 時間	10 分	30 分	1 時間	2 時間
コントロール	1.95E+06	1.88E+06	1.71E+06	1.65E+06	7.13E+05
AT254-V	1.95E+06	1.75E+06	3.63E+05	3.92E+04	1.38E+03

検出限界値：<5.00E+01

表 3. ウイルスの不活化効果と減少率

AT254-V	0 時間	10 分	30 分	1 時間	2 時間
不活化効果 (Mv)	-	0.03	0.67	1.62	2.95
減少率 (%)	-	6.666%	78.754%	97.626%	99.887%

減少率(%)は小数点第 4 位以下切り捨て

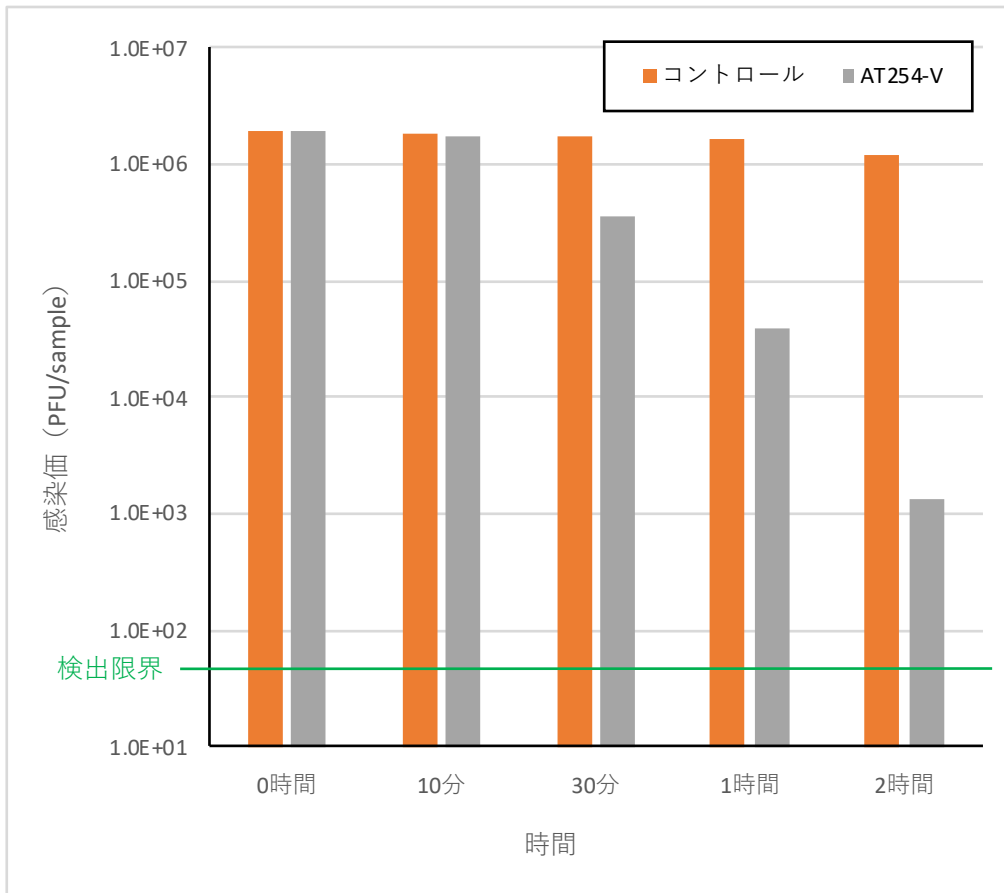


図1. ウイルス感染価の推移

6. まとめ

本試験で使用したオールチタン AT254-V（高濃度2）加工したガラス板は、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）に接触させることにより不活化することが判明した。本試験品を使用することにより、物質の表面についた新型コロナウイルスによる接触感染防止に有効である可能性が考えられた。なお、空間に浮遊するウイルスへの効果、人体への影響については検証を行っていない。

本試験結果は本報告書の通りであることを証明いたします。

公立大学法人
 奈良県立医科大学医学部
 微生物感染症学講座

